

土木学会 第 62 回海岸工学講演会にて研究発表を行いました(2015/11/11-13)

テーマ：災害科学，海岸工学，津波工学
 場所：タイム 24 ビル（東京都江東区）

11月11日(水)～13日(金)の3日間，タイム24ビル（東京都江東区）で土木学会が主催する「第62回海岸工学講演会」が開催されました。土木学会海岸工学委員会では，査読付きの論文集である「土木学会論文集B2（海岸工学）」を編纂しています。海岸工学講演会は，この論文集に掲載された論文について発表会を行い，参加者との意見交換を行うものです。当研究所からは，学術講演会で20編の論文（うち，教員筆頭6編）が採択され，有働恵子准教授，サッパシー・アナワット准教授，ブリッカー・ジェレミー准教授（以上，災害リスク研究部門），佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門），山下啓助教（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が登壇し発表しました。各発表者の講演題目等は次の通りです：

- 今井健太郎，菅原大助ら：2011年東北津波における北上川河口部の大規模洗掘・堆積に関する数値的検討
 今井健太郎，今村文彦ら：沿岸湖沼に突入する津波の水理特性に関する実験的検討
山下啓，菅原大助，今村文彦ら：岩手県陸前高田市における2011年東北地方太平洋沖地震津波による大規模土砂移動の再現計算
 中平達也，山下啓ら：超大型浮体構造物が有する津波高さ低減効果の数値解析
 福谷陽，今村文彦ら：エネルギー保存則による浸水評価を用いた広域に亘る施設群の津波リスク評価
佐藤翔輔，今村文彦ら：学校・地域・行政の連携による全町一斉学校避難訓練手法の設計・実践－宮城県亘理町における試み－
佐藤翔輔，今村文彦ら：来街者の津波避難誘導をねらいにした避難行動・誘導実験とその分析－石巻市中心市街地における事例－
 牧野嶋文泰，今村文彦，安倍祥：歩車混在を考慮した津波避難シミュレーションの開発－2011年東日本大震災での気仙沼市での検証－
 阿部郁男，今村文彦：地殻変動即時推定と津波避難予測データベースの併用による高精度津波浸水予測
 佐藤兼太，越村俊一：非圧縮型格子ポルツマン法による自由表面流れ解析の計算安定化
 成田裕也，越村俊一：津波被害の地域特性に基づく津波被害関数の類型化
 郷右近英臣，越村俊一：L-バンド合成開口レーダによる津波被災地の建物被害推計手法の開発
 有働恵子：砂丘周辺の飛砂フラックスと風向風速特性との関係
 紀国亮，有働恵子：日本全国の海岸における過去の長期汀線変化特性の解析
 東條 薫，有働恵子ら：2011年東北地方太平洋沖地震津波による砂浜の広域被害特性の解析
 高村まや，有働恵子，佐藤源之ら：GPR（地中レーダ）を用いた津波後の堆積構造把握技術の開発
 飯田立樹，呉修一，有働恵子ら：液状化を考慮した津波の戻り流れによる構造物周辺の洗掘メカニズム
Jeremy D. BRICKER，Volker ROEBER，Shuichi KURE et al.: Simulation of the December 2014 Nemuro Storm Surge and Incident Waves
Akihiko NAKAYAMA，Jeremy D. BRICKER et al.: Large Eddy Simulation of Scour Due to Tsunami Flow Overtopping Seawall and Revetment
Anawat SUPPASRI，Carine J. YI，Jeremy D. BRICKER，Fumihiko IMAMURA et al.: Field Survey and Analysis of Damaged School Buildings by the 2013 Typhoon Haiyan and Storm Surge
Bruno ADRIANO，Erick MAS，Shunichi KOSHIMURA : Developing a building damage function using SAR im-agesand post-event data after the Typhoon Haiyan in The Philippines
 著者名は，筆頭著者と研究所構成員のみ記載。下線は研究所構成員。



発表及びテレビ取材の様子



討論の様子

文責：呉修一（災害リスク研究部門），佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）

山下啓，林晃大（寄附研究部門）